

無料クラウドで遠隔保守ニーズ狙う NECプラットフォームズが感染対策で新提案

IoTを活用した機器・設備の遠隔監視／保守ニーズが盛り上がりを見せている。感染症対策による移動自粛・制限も需要増に拍車をかけた。

これに応える新ソリューションの提供に注力するのがNECプラットフォームズだ。豊富な導入実績を持つM2Mルーターと、通信機器のクラウド管理サービスを組み合わせ、大規模リモート保守を可能にする仕組みを構築。製造業やインフラ監視など多様な業種へ売り込みをかける。

使用するのは、監視カメラや計測器、太陽光発電システム等に3G/LTE通信機能を後付できるM2Mルーター「EA01A/EA01L」と、通信機器をクラウドから一括管理する統合管理サービス「NetMeister」だ。

前者はカードサイズの小型筐体にルーター機能、リモートでの再起動や回線監視、バージョンアップ機能などを搭載し、LANケーブルまたはUSBで機器と接続できる。寒冷地や空調設備のない場所や車両内で使えるモデルも用意しており、2018年から様々

な業種で採用されている。

一方のNetMeisterは、NECのIXルーターやAspireシリーズなどを一括リモート管理するクラウド型サービスだ。複数の機器をグループ分けして管理でき、機器・回線の死活監視やアラーム表示など多彩な機能を備える。管理者はブラウザでアクセスするだけで、多数の機器を効率的に管理できる。

今回、EA01A/EA01Lのファームウェア更新により、このNetMeisterに対応させた。「全国に散らばる小型ルーターを効率的に管理するのにNetMeisterは最適。コロナ禍で現場に行くリスクを排除し、クラウドから現地状況を確認できるようになることでトラブル時の初動が簡単になる」とNECプラットフォームズの品川信氏は話す。

無料サービスで数百台を遠隔監視

NetMeisterに対応したことで、数百台・数千台の機器をグループ分けして監視・管理できるようになったうえ、ファームウェアのリモート更新等にも



NECプラットフォームズ
営業事業本部
営業推進本部
NTT事業推進部
品川信氏

対応した。状態確認やアラーム表示などすべての操作がGUI画面で行えるため、ITスキルが不足する保守作業員でも扱いやすい。

また、NetMeisterでの状態確認後、現地作業に赴く際に役立つ機能も備える。管理対象機器の所在地を地図上に表示し、保守作業員向けのメモも登録可能だ。「現地作業時にはキャビネットの鍵を持参する」「再起動の場合は管理部に連絡する」など、忘れやすい事柄を確実に伝える備忘録の役割も兼ねられる。

もう1つ、ダイナミックDNS機能により動的IPのままリモート監視ができることも大きな利点だ。「固定IPは費用がかかるうえ、漏洩した場合のリスクも懸念される。起動するたびに変わる動的IPで使うことで、低コストかつセキュアにリモート保守ができる」（品川氏）

本ソリューションは新型コロナウイルスの感染拡大前に企画したものが、同社には現在「密を避けたい」「保守員をお客様に会わせたくない」など感染防止に関する相談も寄せられているという。NetMeisterのサービス利用料は無料で、上記の機能はすべてEA01A/EA01Lを購入するだけで使える。感染対策、人件費・移動費削減、人手不足解消など様々な切り口で注目が集まりそうだ。

図表 EA01A/EA01LとNetMeisterによるリモート監視のイメージ

